

2019年度収蔵作品（受贈）

| no. | 作者 | 作品名 | 制作年 | 技法・素材 | サイズ（cm） |
|-----|-------|--------------|-------|---------|-------------|
| 1 | 緑川 宏樹 | はぜるQ体（M氏の系図） | 1983 | 陶（26点組） | 11-18（長径） |
| 2 | 緑川 宏樹 | 裂 | 1988頃 | 陶 | 20（長径） |
| 3 | 緑川 宏樹 | 題不詳 | 1988頃 | 陶（8点組） | |
| 4 | 緑川 宏樹 | 薄（1） | 1990頃 | 陶 | 72.5×30×0.6 |
| 5 | 緑川 宏樹 | 薄（2） | 1990頃 | 陶 | 67×30.5×8 |

◇緑川 宏樹／みどりかわ ひろき（1938-2010）

1938年東京都中野生まれ。高校生の頃、陶芸に興味を持ち「陶彫研究所」（東京都板橋区）に通い陶芸と現代美術に出会う。卒業後は、会社勤めの傍ら現代的な作陶に苦心する。1965年会社を辞め、京都に移り住み京都府陶工職業訓練校に入所。その後、前衛的陶芸グループ「走泥社」の設立メンバーのひとりである山田光に師事。1970年走泥社展に出品。翌年走泥社同人となり窯を開き陶芸家として独立。1974年、母の故郷であったいわき市に移り住む。

1973年第2回日本陶芸展（以降多数）、アサヒ・アート・ノウ'73。1974年京都毎日美術選抜展招待出品、南米巡回日本陶芸展、1976年「土による新しい造形展」など、新たな陶造の境地を切り開いた〈紙ヒコーキ〉シリーズや〈裂〉シリーズなどで早くから注目を集めた。1982年「土の造形展」、1984年第1回ザグレブ世界トリエンナーレ陶芸小品展など内外の展覧会にも多数参加。また、1975年草野美術ホール（いわき市）で個展。以降、市内・県内を中心に精力的に個展を開催。

いわきに来て早々に地元の作家たちと「いわき陶芸集団」を結成し、1981年からは「いわき陶芸家展」を定期開催、また陶芸教室を開き当市の陶芸の裾野を広げるなど、当地いわきの地域の陶芸文化の醸成にも力を尽くした。また、陶芸の分野にとどまらず、画家の松田松雄らと地域の芸術・文化活動の中心的存在として市民活動を盛り上げ、市立美術館設立にも力を注いだ。2010年、逝去。